

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 25 年度

事業所番号	2772201790		
法人名	社会福祉法人 久栄会		
事業所名	グループホームみのり苑		
所在地	大阪市生野区巽中2丁目14番1号		
自己評価作成日	平成 25年 6月 10日	評価結果市町村受理日	平成 25年 8月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的でゆったりした雰囲気を大切にしたいとの思いから入居定員は6名と少人数です。 ・日中の職員は多い時で4名体制となっており、ゆったりとした時間を共に過ごせるようになっています。 ・入居者一人ひとりの気持ちや考え方を大切にして、個々に合った過ごし方をして頂いている。 ・ご家族と信頼関係が築ける様に電話や面会時に近況報告などを行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosvoCd=2772201790-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 25年 7月 24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人設立後16年を経過し、地域に貢献している社会福祉法人が運営する1ユニット定員6名のグループホームです。ホームは4階建て1階に位置し、2・3・4階に養護老人ホーム、近隣に同法人運営の特養や在宅介護支援センター等があり、連携した運営を進めています。ホームでは小鳥やメダカを飼い利用者が世話をしたり、中庭にアサガオ等を植え、玄関横の菜園には利用者と職員がゴーヤやししとうを育てる等、心休まる環境作りをしています。職員は利用者一人ひとりを大切に支援を行い、利用者は安心して過ごされています。利用者は自治会館で行われている「異サロン」や「異喫茶」に出かけ、学校や保育園との交流も行うなど地域交流を楽しんでいます。災害対策に力を入れ、水害に備えて3階に備蓄を行うなどの取り組みをしています。運営推進会議には家族の複数参加があり、積極的な意見も出されています。ホームでは3名枠の共用型デイサービスを併設し、利用者が通いの利用者と囲碁を楽しむこともあります。法人のバックアップもあり、安定した運営を進めている事業所です。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHの方針を明文化しホーム内に掲示している。 機会をみてスタッフへ方針について伝えている。	「明るく健康的で、豊かな生活をして頂く為の場所を提供します」を理念として掲げ、「少人数・家庭的な環境を活かし、利用者一人ひとりの個性と主体性を大切にした援助をめざします。落ち着いた雰囲気の中で過ごし、ご家族・地域との関係を継続していける援助を目指します」と方針を具体化しています。理念はホーム内に掲示して共有し、支援に活かしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で毎月行われている異サロン、異喫茶などへ参加している。また法人の開催する納涼祭へは地域からも多数の来苑があり盛り上げて頂いている。玄関前のベンチや散歩に出掛けた時は職員の方からも積極的に挨拶をし、時にはお話をしている。	地域の自治会館を活用して取り組まれている「異サロン」や「異喫茶」に出向き、地域住民や他のグループホームからの参加者と交流しています。小学校で行われる七夕祭やクリスマスパーティに参加し、小学生や地域住民と交流しています。地域の保育園児とも交流し、握手をしたり、手作りのプレゼントをもらったりして楽しんでいます。散歩や買物で出会った地域の方と挨拶を交わしたり、法人主催の納涼祭で地域の方と出会って旧交を温めたりしています。最近開設したデイサービスの利用者とも、囲碁等を楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	グループホームとしては活かす事が出来ていないと思われる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況や活動報告を行っている。ご家族からも意見を頂戴する事があり、役立てるように努めている。	運営推進会議は規約を定め、2か月に1回、年6回の定期開催をしています。メンバーには利用者家族、地区社会福祉協議会会長、地域包括支援センター職員が参加しています。利用者家族は複数名の参加があり、積極的な意見や提案をしています。ホーム職員は、利用者の生活状況等を詳細に分かりやすく報告し、参加メンバーから出された意見や提案を大切にして、ホーム運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡を行っている。	法人全体の運営も含めて市担当課との連携が図られており、ホーム運営についても何かあれば相談して助言を受けています。最近始めたホームでのデイサービス運営についても、市担当課に相談しながら進めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関の施錠に関しては入居者の安全を考え、施錠していることが多いが状況をみて出来るだけ解錠するように心掛けている。</p> <p>身体拘束についての勉強会や研修を定期的に行い、具体的な身体拘束の行為について全職員が知っているようにする必要がある。</p>	<p>運営規程の17条に「身体拘束の制限」の項を設け、「利用者の生命又は身体を保護するための緊急やむを得ない場合を除き、身体拘束その他行動を制限する行為を行ってはならない」と明記しています。職員は身体拘束についての学習を行い、身体拘束を行わない支援をしています。玄関は施錠していますが、日中は試験的に解錠を試みるなどの取り組みを始めています。</p>	<p>玄関の解錠については安全性を考慮し、職員間で十分検討した上で実施することが望まれます。運営推進会議等で解錠する時間を周知徹底するなど、関係者の協力を得ながら進めることが期待されます。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会など学ぶ機会が少ないので、増やしていきたいと考えている。</p>	/	/
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修へ行く機会は出来たが、活用はできていない。</p>	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所からの一方的な説明にならないように確認しながら行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議により地域やご家族の方からの意見を聞く機会がある。 入居者やご家族からの希望、意見があれば聞くようにしている。 ご家族とは面会時以外にも電話連絡で近況報告など行っており、ご家族の思いや希望にそえる様に努めている。	日頃から利用者、家族の意向を確認しながらホーム運営を進めています。家族の来訪時には利用者の状況を説明し、家族の意見や要望があれば記録に残して職員間で共有して、実現するよう取り組んでいます。また、何かあれば電話等で連絡を取り、相談しながら利用者支援を進めています。ホーム内で新規開設したデイサービスについても、利用者家族の提案を活かした運営をしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員個々が定期的に運営に関する事を伝える機会はない。 職員からの意見、提案があればまず主任へ伝え、その都度代表者や管理者へ伝え反映していくようにしている。	月1回の職員会議でホーム運営について意見交換をしています。会議で職員間の意見や提案事項をまとめ、その内容をホーム運営に反映しています。法人全体に関わる事項や設備改善等については、管理者が法人上層部に相談し、実現するよう調整しています。現在、職員間で入浴設備が「より使いやすいようになるよう」検討を重ねており、改善する方向で取り組んでいます。	管理者は、利用者の急変時や事故発生時の対応について、職員の希望を確認しながら外部研修や法人内部研修を企画する予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回職員面談を行い意見や希望を聞いている。その際に職員個々へ改善してもらいたい事などを伝えている。職場環境や条件については、随時に整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合った内容の外部研修を受けるように勧め参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市老人福祉施設連盟グループホーム分科会や生野区グループホーム・小規模多機能連絡会を通じて研修、交流を行いサービスの質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の希望や考えていること等を普段の会話から傾聴するように心掛けている。 初期段階に限らず、入居者との信頼関係を築くことが安心して生活して頂けることに繋がると考え気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期にはご家族の希望や不安などを聞き取りしている。また、家族との関係は大切な事であると理解し、面会に來られ時には職員から積極的に話しかけ入居者の様子などを伝えている。ご家族とも話しやすい関係作りを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて他のサービスの説明や当事業所についての説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り、洗濯物、配膳など入居者一人ひとりの出来る事を見つけ手伝って頂き一緒に生活している雰囲気づくりに気を付けている。 ご本人が自分で出来ることは介助を行わず見守っている。 スタッフからも入居者へ相談したり・昔の事を話してもらったり・お願い事をする事で、介護される側とする側の関係にならない事を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加、受診をお願いし、その際の電話で本人の近況や体調をお伝えしている。面会時にも同様に近況をお伝えし、本人についての情報をお聞きするなどしている。 また、入居者に関わる事をスタッフだけで決定してしまわないように気をつけご家族へも確認している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	元々住まわれていた場所などヘッドライブや散歩で出掛ける事がある。 時々、知人の訪問がある。	ホームへ利用者の友人や知人が来られた際には歓迎し、ゆっくりして行かれるように声かけをしています。利用者が住んでいた場所を分かりやすくマークした地図を職員間で共有し、利用者と共に近くまで出かけたり、車で出かけた際に通ったりして喜ばれています。希望があれば手紙や年賀状を出したり、電話をかけたりの支援もしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルを囲み一緒に洗濯物たたみを手伝われたり、玄関のベンチで談笑されていることがある。 数人で一緒に散歩へ出掛けることがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院中の荷物の預かりや、介護認定更新に際して相談を受けることがある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人へ尋ねたり、以前の暮らしや性格をふまえて職員間で相談している。また、日々の生活の中で、その方が発した言葉や表情・行動などから、その方の思い・希望・生活スタイルを把握できるように努めている。 ご家族から聞くこともある。	利用者の思いや意向については、その都度確認しながら進めています。雑談の中で思いを理解したり、個別に話をする機会を作り、意向を確認したりしています。明確な意思表示をされない場合には、実物を示して選んでもらったり、家族の意見を聞いたりしています。言葉での意思表示が難しい利用者については、職員が利用者の表情を見て意向をくみ取ることもあります。利用者の生活歴、嗜好品、趣味、特技等については、暮らしの情報シートを作成し、職員間で共有しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりのケアチェック表や暮らしの情報シートを作成し把握に努めている。 本人や家族との普段の会話からも色々な情報を取り入れられるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	さりげない見守りを行うことを大切に、自分のペースで過ごしてもらるように気をつけている。本人の行動・表情・会話などに気を付けながら心身状態の変化の把握に努めている。 スタッフ同士で入居者に関する情報交換を行い把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のグループホーム会議をはじめ、日頃から気付いた事、問題点などがあれば職員間で話し合い共有している。 ご家族とは面会時や電話連絡にて現状を伝えながら相談している。	介護計画書は、利用者や家族の意向を確認し、担当者会議を開いて作成しています。ケアプラン実施状況を記録し、1カ月毎にモニタリングをして記録に残しています。担当者会議は3カ月毎に行い、6カ月毎にアセスメントをして見直しをしています。必要な場合には随時見直しを行い、家族を交えて話し合いをすることもあります。介護計画書は、利用者の自立支援を考慮して作成しており、目標設定も具体的で分かりやすくしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、いつもと違った変化などについて個別に記録している。 申し送りや連絡ノートを活用し注意事項などについても職員間で共有しやすくなっている。 記録の積み重ね、情報の共有から介護計画へ活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じ柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて協力をお願いしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望、了解をもらいホーム近くの医院をかかりつけ医にされる方が多い。特変時や必要のある際には受診の付き添いを行い、電話にて相談も行っている。 併設診療所の医師による回診は週に2回あり、必要に応じ相談している	利用者・家族の希望に添った医療機関で適切な医療が受けられるように支援しています。かかりつけ医への受診時には家族が付き添うようになっていますが、急に変化があった場合や家族の都合がつかない場合には、職員が付き添い支援をしています。必要時には同法人診療所の医師による訪問診療も受けることができます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師と必要に応じて相談・報告し連携している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、面会や電話連絡にて本人の状態把握に努めている。 病院側の担当者からも随時、連絡を頂くことが出来ている。 入退院についてはかかりつけ医とも情報交換し連携し対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態の変化、重度化した際には、その都度家族との話し合いの機会をもつようにしている。 特に何らかの医療的な対応(点滴など)が常に必要となった際には家族・かかりつけ医を含めて今後について検討するようにしている。	入居説明時に重度化した場合の対応について説明し、利用者・家族の希望を聞いています。重度化した場合にはできる限りの支援を行う用意があります。医療依存度が高くなった場合には主治医の意見を聞き、家族と相談しながら対応をしています。重度化した場合の対応として、あらかじめ特養の申し込みをされている場合もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応時のマニュアルを作成し、応急手当などの書面と併せて緊急時に備えている。 急変事の対応については定期的に勉強会が必要と思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施している。 職員は非常口、消火器の場所を把握できており、倉庫には非常時備蓄品を準備している。 スタッフ全員が避難対応を行えるか、地域との協力体制が築けているかという事に関しては改善が必要である。	「災害時のマニュアル」を作成し、年に2回の防災避難訓練を行っています。避難訓練は併設している養護老人ホームと合同で行い、消防署の指導を受けています。災害時対応については運営推進会議でも意見が出され、水害時にも対応できるよう、非常災害時の備蓄品等を建物の3階に移し、保管しています。	ホームでは新入職員を含め、全職員が非常口等の避難経路を認識し、消火器等の活用方法を熟知して、緊急時に落ち着いて行動できるように自主訓練を重ねる予定です。今後、取り組みの成果が期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの気持ちを大切にしプライバシーを損ねないような言動を常に心がけて対応している。	運営の方針に「利用者一人ひとりの個性と主体性を大切にした援助をめざします」として掲げ、一人ひとりを大切に、プライバシーを損ねない対応を心がけています。職員は利用者に寄り添い、家庭的な気配りや対応をしています。管理者は接遇を重視し、新入職員等の育成にも配慮しています。個人情報保護については職員間で徹底し、書類やデータ等は保管場所を決めて管理しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で一人ひとりの声に耳を傾け本人の思いを大切にしている。 選択肢などを分かりやすく説明し自己決定や希望を導くような対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの様子を見守りながら、本人のペースで生活ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに家族・職員によって衣替えを行っている。毎日同じ服にならないように配慮し、自分で着る服を選んで頂いている方もいる。整髪など身だしなみは居室の洗面台にて行っている。 散髪は本人や家族の希望によって行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けなどを入居者と共に行っている。月1回のおやつ作り・月2回の食事作りでは野菜の皮むきなど出来る事を一緒にしている。	食事は、併設する養護老人ホームの厨房で作られたものを職員と利用者が盛り付け、配膳しています。ご飯と汁物はホームで作り、利用者家族から提供された玉ねぎやジャガイモを活用して具材を豊かにしています。また、玄関横の菜園で利用者と共に育てたゴーヤやししとうなど、新鮮な野菜を調理してみんなで味わったりしています。ホームでは、利用者と副食やおやつ作りをして楽しんでいます。また、地域で開設している「異喫茶」に出向き、ぜんざいや軽食を楽しむなどの支援もしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事量・水分摂取量を記録し把握に努めている。摂取量の少ない方には個々に補食などを購入して頂き対応させて頂いている。食事形態にも配慮しスタッフにより刻み食を用意している。 個々に好きな副菜や飲み物を購入していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方には入浴時や就寝時にポリドントを使用し洗浄して頂いている。ブラッシングの出来る方へは声掛けや介助にて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりに排泄チェック表を作成し排泄パターンの把握に努めている。トイレ誘導の必要な方へは排泄チェック表を確認しながら、さりげなく誘導が出来るように気を付けている。紙パンツや尿取りパットの使用については状態に合わせて検討し決めている。日中に関しては全員がトイレを使用されている。	自室にトイレが設置されており、利用者は自室で排泄するのが日常的です。職員は利用者の自立支援を心がけ見守り支援をしています。排泄支援が必要な場合には、時間を見て声をかけをしたり、トイレに誘導したりして極力オムツ類に頼らない支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取(野菜ジュース、牛乳など)を勧め、散歩や買い物へ一緒に出掛け体を動かしてもらえるように働きかけている。また、便秘が続く時には個々に処方されている下剤の量を調整し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間や曜日は決めておらず、個々の体調や気分を考慮しタイミングをみて入浴して頂いている。現在のところ2、3回/週のペースである。	入浴の日程は決めずに、一人ひとりの希望や体調を見て入浴を勧めています。入浴を好まれない場合にもタイミングを見て誘ったり、誘う人を変えて勧めたりしています。時間帯や入浴する順番などは、できるだけ希望を尊重するようにしています。しかし、結果として一人ひとりの入浴回数は週2~3回程度になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	快適に休むことが出来るように生 活習慣や室温の調整に配慮して いる。また、不安等の訴えには話 しを聞くなどし安心して眠れる ように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	服薬状況・管理表を作成し、服 用している内容が把握できるように している。副作用についても薬の 説明書を作成しており確認が可 能である。 症状の変化についても様子をみ ながら、かかりつけ医などへ相 談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	食後の洗い物を手伝って下さる 方や、洗濯物を丁寧にたたまれ る方、テレビや散歩の好きな方 など、それぞれの役割や楽しみ 事があり、職員もその時間を共 有し見守ることで支援している。 個々に合った楽しみや喜びの ある取り組みがおこなえればと 思う。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。又、普段は 行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の 人々と協力しながら出かけられ るように支援している	日常的に散歩や買い物へは入居 者と一緒に出かけ、定期的に開 かれて地域行事へも参加出来る よう取り組んでいる。 今後は、普段行きにくい所へ出 掛ける支援もしていきたいと思 う。	日常的には、散歩や買い物、地 域サロンや喫茶への外出支援を 行っています。散歩や買物の機 会に、利用者が以前住んでいた 地域に出向いたり、馴染みのス ーパーに出かけたりすること もあります。年間行事として、 花見や夏祭り、小学校の七夕や クリスマスパーティ等に出かけ る取り組みをしています。	ホームでは今後、利用者一人 ひとりの希望に添った外出支 援ができるよう取り組みの成 果が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は職員が預かっており、買い物の際は職員が支払いを行っている。 自身で財布を持たれている方もいるが普段は使われていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人から電話を掛けたい等の希望があれば職員がお手伝いし掛けさせて頂いている。また、本人へ届いた手紙の受け渡しや、電話の取り次ぎを行っている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温。明るさ、換気などに配慮し快適に過ごす事が出来るようにしている。 リビングには大きな窓、ソファ、観葉植物、テレビなどがありゆったりくつろげるようにしています。壁にはカレンダーを飾り、一緒に遊べるゲームや音楽等も目の届く所に置いています。また食事の際には出来るだけ陶器の食器を使用し、生活感が感じられる様になっています。	ホームは4階建ての1階部分にあり、独自の玄関を設置しています。リビングにはいくつかのソファを並べ、利用者がいつでも横になって休めるようにしています。庭にはアサガオなどの植栽をして、リビングからも季節を感じて楽しむことができます。メダカや錦花鳥を育て、それぞれが繁殖するなど、利用者の楽しみごとになっています。共有のトイレや浴室は広く、廊下には空気清浄機を置く等、空調にも配慮しています。調理台は利用者も一緒に取り組めるように対面式になっており、使いやすく工夫しています。	広くてゆったりとした浴室が時には一人ひとりの個浴に向かないことがあり、職員間でどのような設備があれば省エネルギーで使いやすいものになるのかの検討を重ねています。今後、取り組みの成果が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前のベンチ、廊下のベンチ、居間のソファなどがあり、思い思いの場所で過ごす事が出来るようになっている。入居者同士の団欒の場ともなっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差はあるが使っていた物を持ってこられており、テレビ・椅子・タンス・布団等の馴染みの物を置かれている。入居後も家族の持ってこられた飾り物やホームで撮った写真等を壁に飾り、その人にとって居心地の良い空間となるように配慮している。	利用者は馴染みの家具やインテリア、ふとん、テレビ、写真、フラワーアレンジメントなど、それぞれ好みのもを持ち込み、家族の協力もあり、個性的でゆっくりと楽しめる部屋づくりをしています。職員は安全性を考慮した家具の配置を工夫するなど、居心地の良い生活空間を整えるよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、廊下のじゅうたん等で歩行時の安全面が考えられている。居室内においてもベッドや家具の配置を工夫し安全面を考えている。		